

令和6年度 幸区区民アンケート調査 概要版

■ 調査の概要

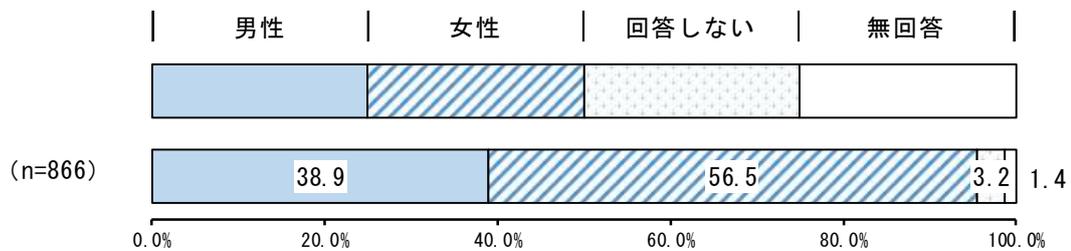
- 【調査対象】 幸区内在住の18歳以上の個人(外国人含む)
- 【標本抽出】 令和6年9月1日現在の住民基本台帳に基づく無作為抽出
- 【調査方法】 郵送配布、郵送回収またはインターネット回答
- 【調査期間】 令和6年9月13日～9月30日
- 【回収結果】 調査件数：2,000件
有効回収数：866件
有効回収率：43.3%
- 【調査項目】

(1) 幸区について	(8) 児童虐待について
(2) 区民サービスについて	(9) 高齢者支援について
(3) 自転車事故防止対策について	(10) 障害者支援について
(4) 防災について	(11) 行政の情報について
(5) 地域コミュニティについて	(12) 公園の利用について
(6) 地域包括ケアシステムについて	(13) 自由意見
(7) 子育て支援について	

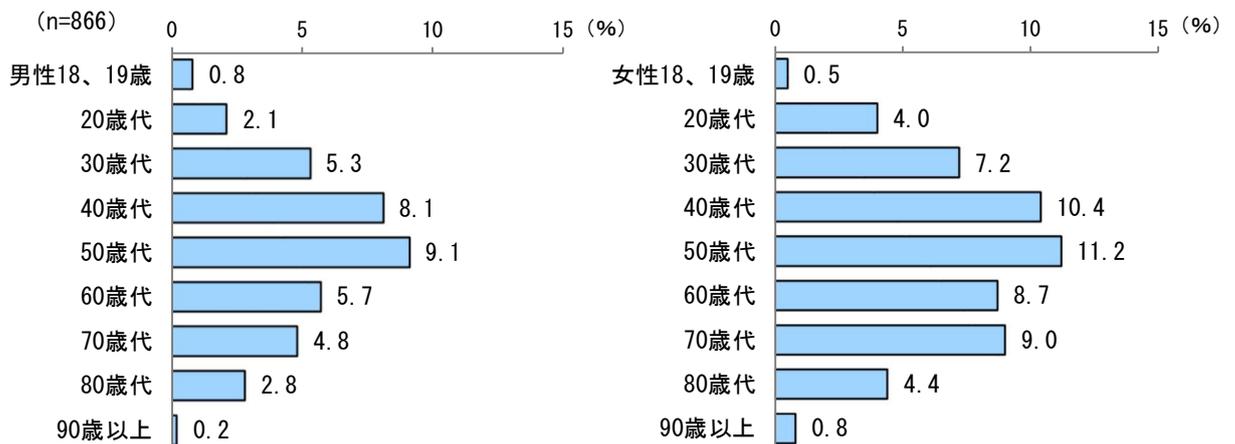
※ 図中における基数となるべき実数(n)は回答者数を示している。また、本文中の「構成比(%)」は小数点以下第2位を四捨五入していること、並びに複数回答によるものも含まれていることから、構成比の合計が100%に満たない、あるいは上回る場合がある。

■ 調査回答者の属性

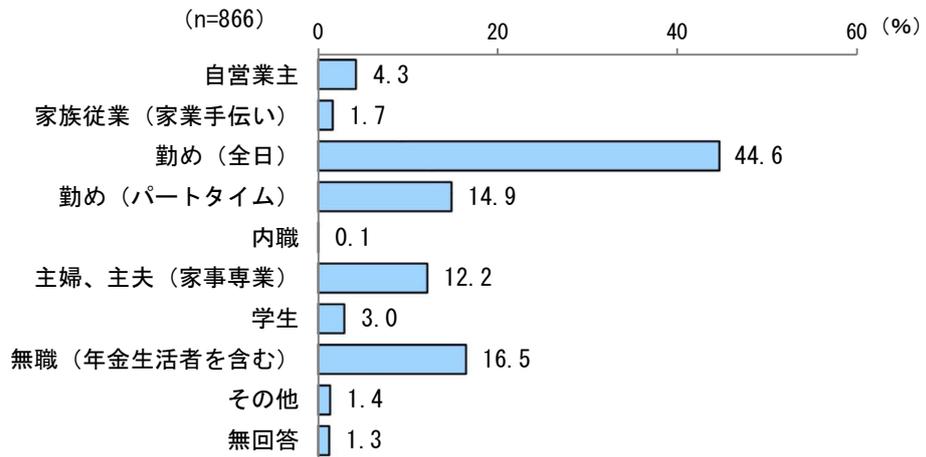
(1) 性別



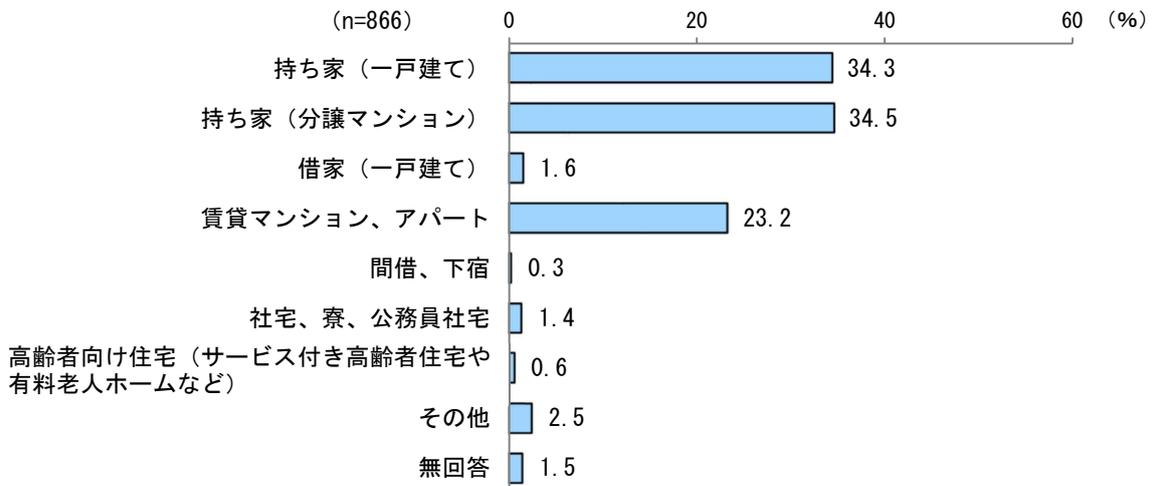
(2) 年齢



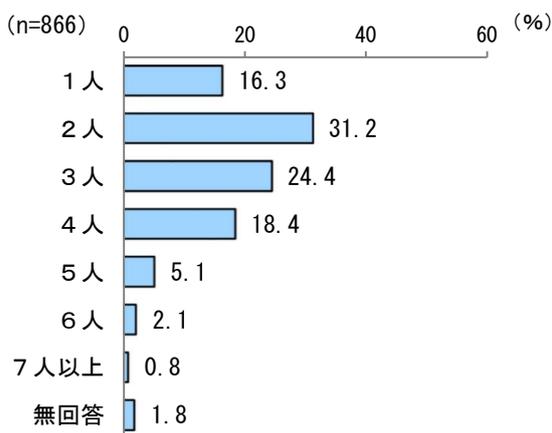
(3) 職業



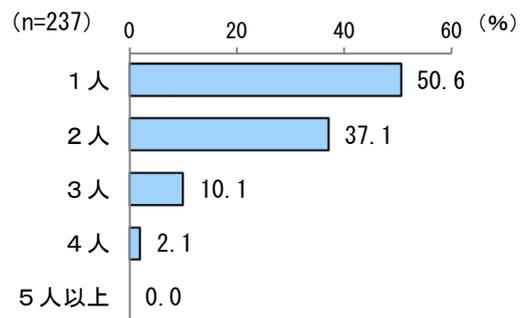
(4) 居住形態



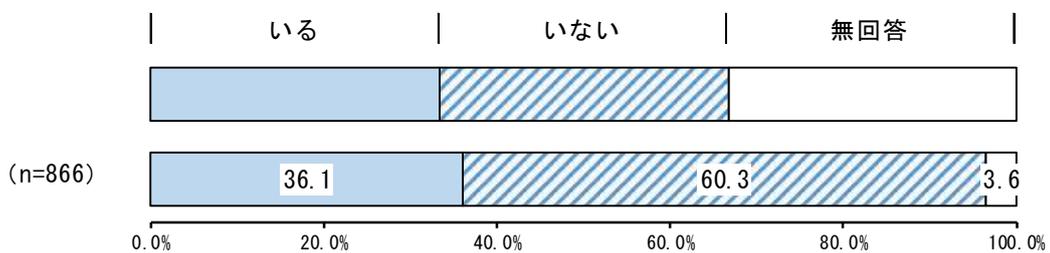
(5) 同居家族



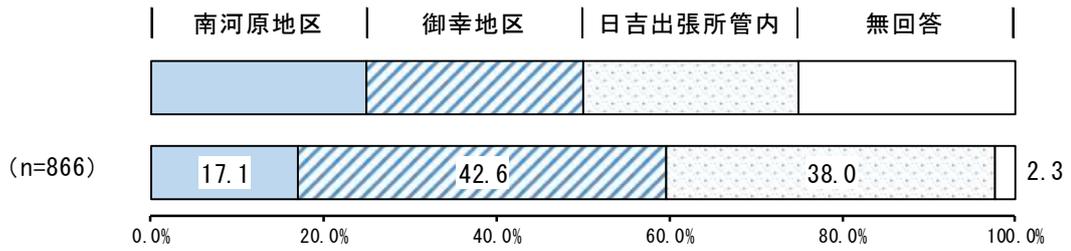
(6) 同居する子ども (未就学児、小学生、中学生、高校生) の人数



(7) 高齢者 (65歳以上) の同居状況



(8) 居住地区



※各地区の内訳

【幸区役所管内】

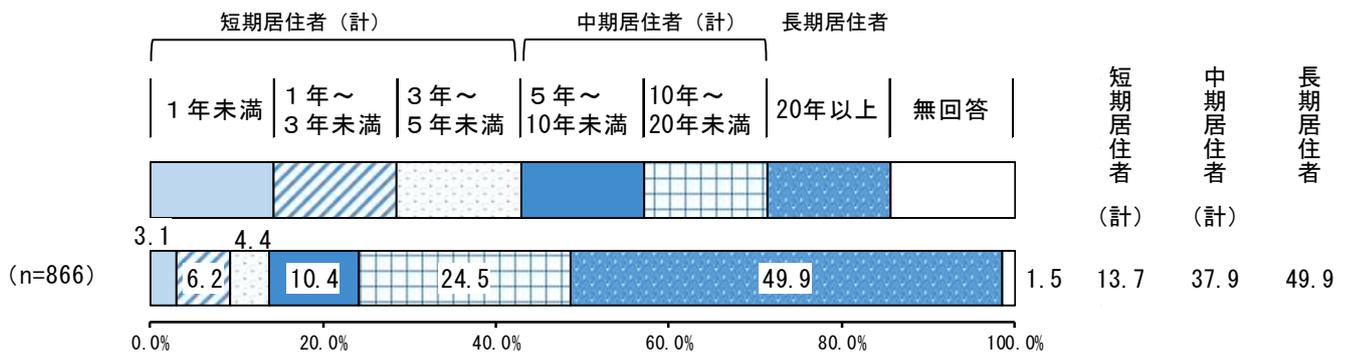
南河原地区：大宮町、幸町、中幸町、堀川町、南幸町、都町、柳町

御幸地区：遠藤町、河原町、小向町、小向仲野町、小向西町、紺屋町、下平間、新塚越、神明町、塚越、戸手、戸手本町、東古市場、古市場、古川町

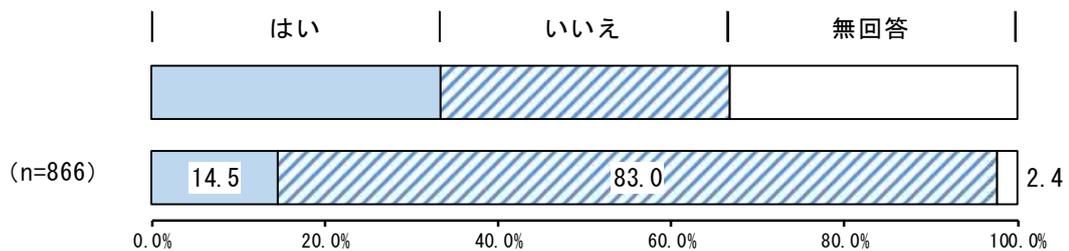
【日吉出張所管内】

日吉地区：小倉、鹿島田、北加瀬、新小倉、新川崎、東小倉、南加瀬、矢上

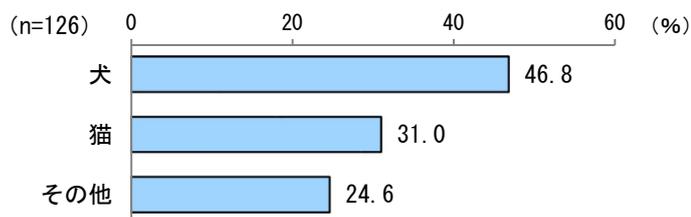
(9) 居住年数



(10) ペット（犬や猫など）の有無



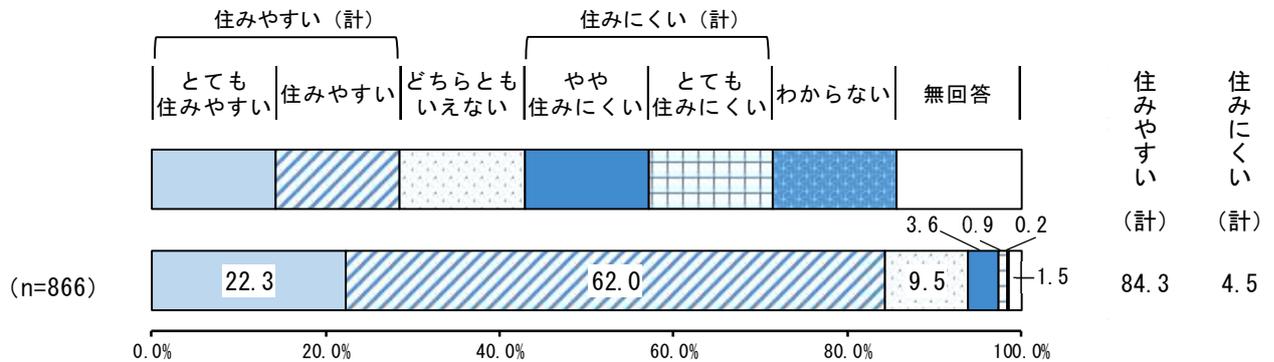
(10-1) 飼っているペットの種類（複数回答）



1. 幸区について

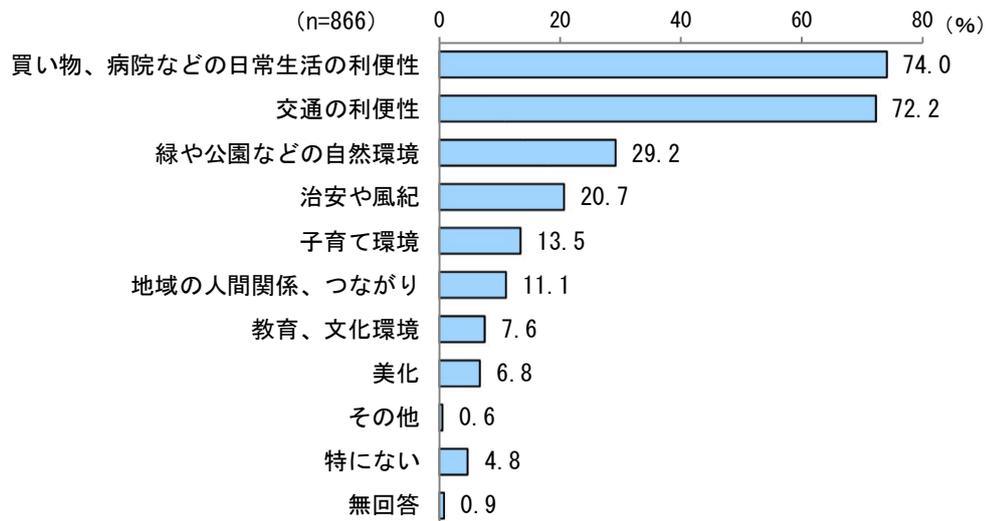
(1) 幸区の住みやすさ

「とても住みやすい」(22.3%)と「住みやすい」(62.0%)を合わせた『住みやすい(計)』は84.3%となっている。



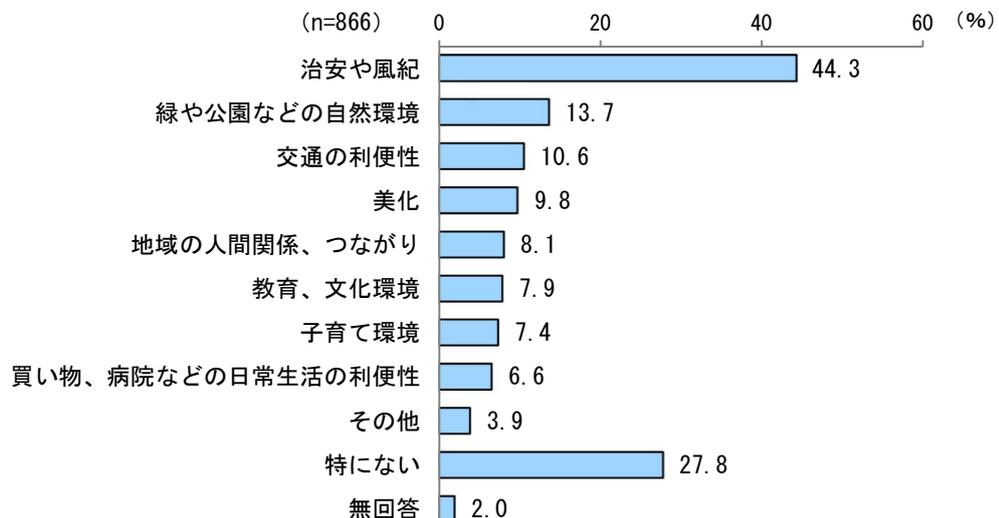
(2) 幸区の良いと感じるところ(複数回答)

「買い物、病院などの日常生活の利便性」が74.0%と最も高く、次いで、「交通の利便性」が72.2%、「緑や公園などの自然環境」が29.2%となっている。



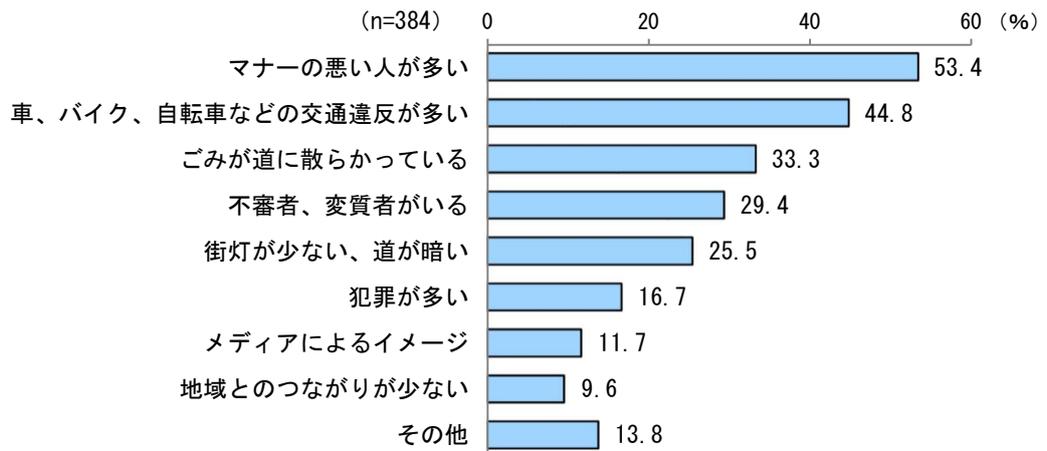
(3) 幸区の不満に感じる場所(複数回答)

「治安や風紀」が44.3%と最も高く、次いで、「緑や公園などの自然環境」が13.7%、「交通の利便性」が10.6%となっている。一方、「特にない」は27.8%となっている。



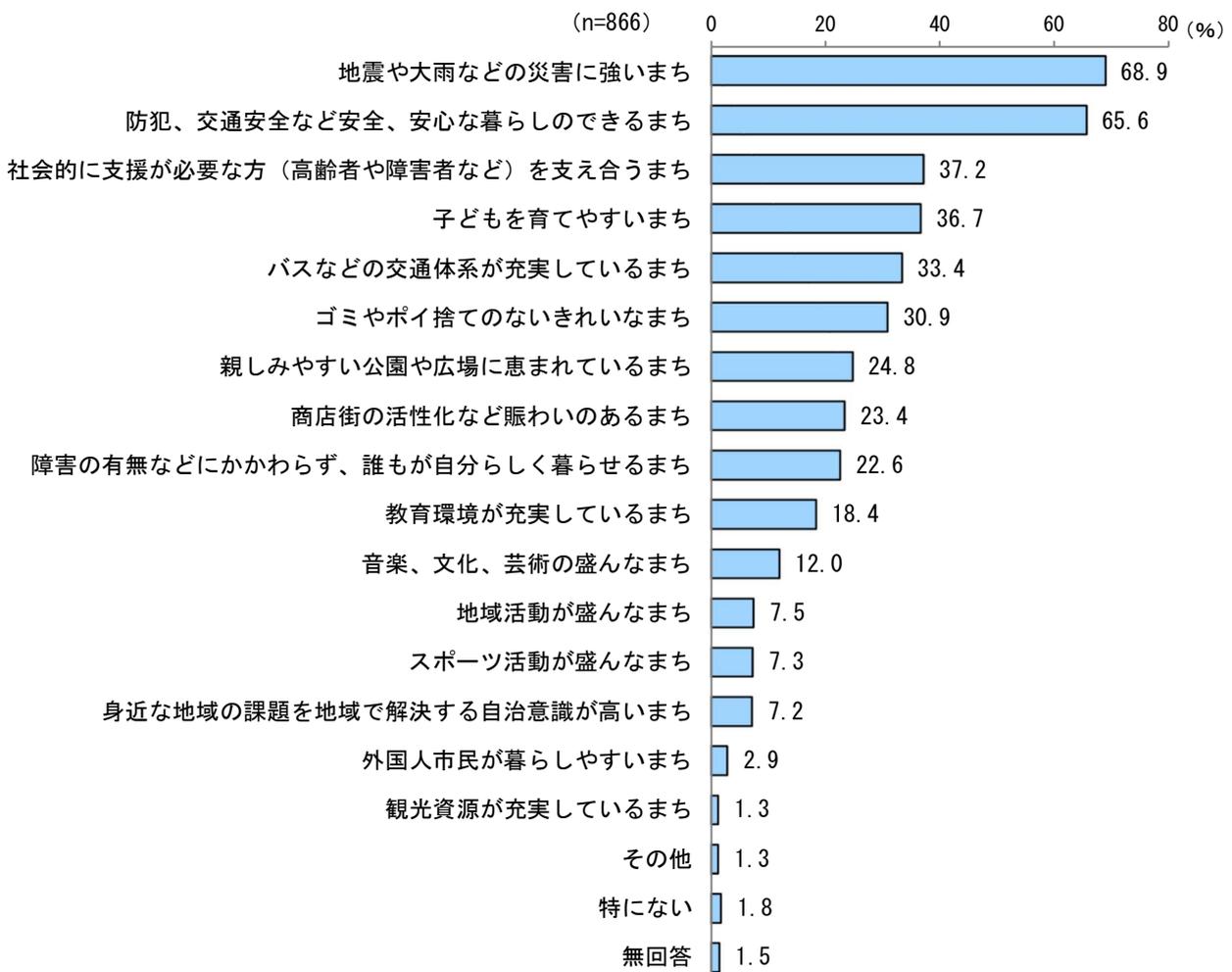
(4) 治安や風紀で不満を感じる点（複数回答）

「マナーの悪い人が多い」が 53.4%と最も高く、次いで、「車、バイク、自転車などの交通違反が多い」が 44.8%、「ごみが道に散らかっている」が 33.3%となっている。



(5) 「10年後の幸区」について、どのような「まち」をめざすべきか（複数回答）

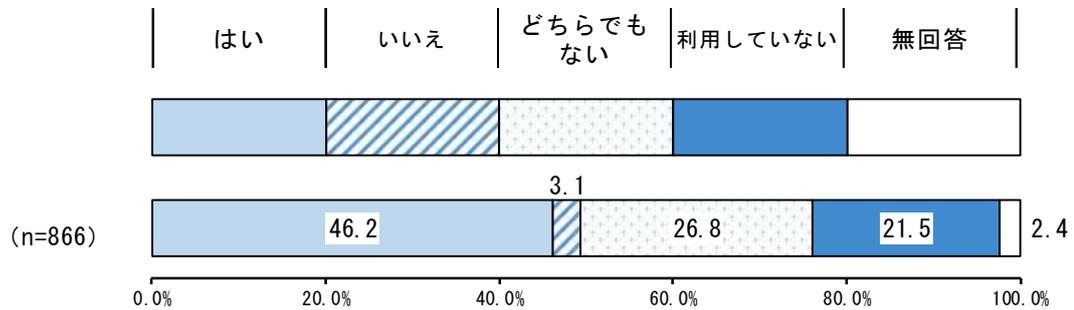
「地震や大雨などの災害に強いまち」が 68.9%と最も高く、次いで、「防犯、交通安全など安全、安心な暮らしのできるまち」が 65.6%、「社会的に支援が必要な方（高齢者や障害者など）を支え合うまち」が 37.2%、「子どもを育てやすいまち」が 36.7%となっている。



2. 区民サービスについて

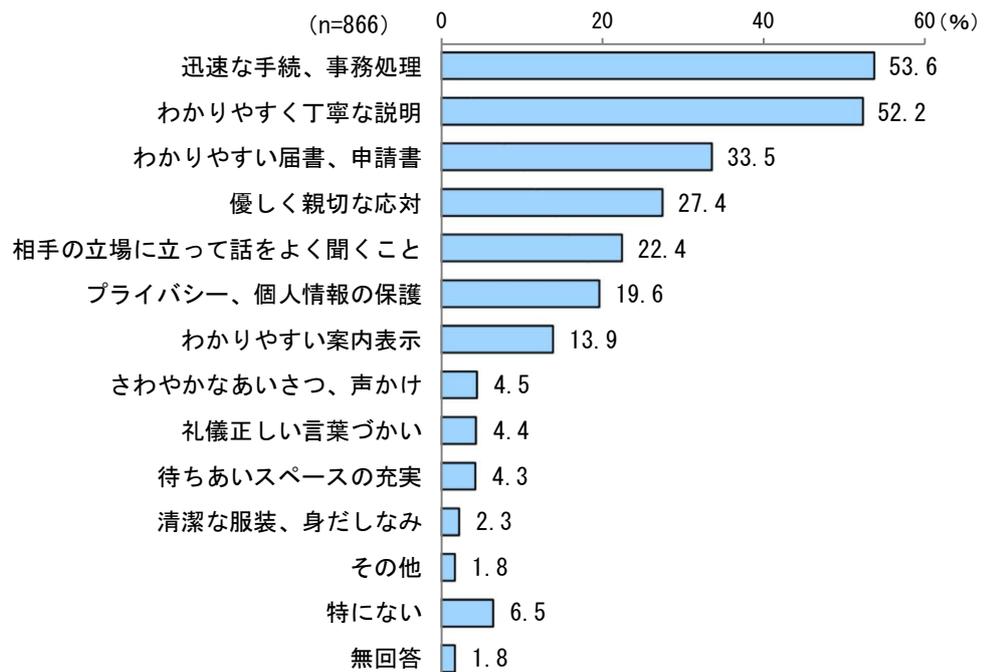
(1) 区役所での対応の満足度

「はい (満足している)」が 46.2%、「いいえ (満足していない)」は 3.1%となっている。また、「どちらでもない」は 26.8%、「利用していない」は 21.5%となっている。



(2) 窓口サービスなどに期待するもの (複数回答)

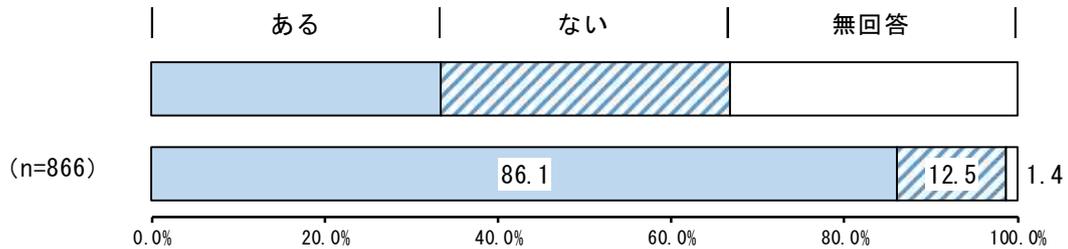
窓口サービスなどに期待するものを聞いたところ、「迅速な手続き、事務処理」が 53.6%と最も高く、次いで、「わかりやすく丁寧な説明」が 52.2%、「わかりやすい届書、申請書」が 33.5%となっている。



3. 自転車事故防止対策について

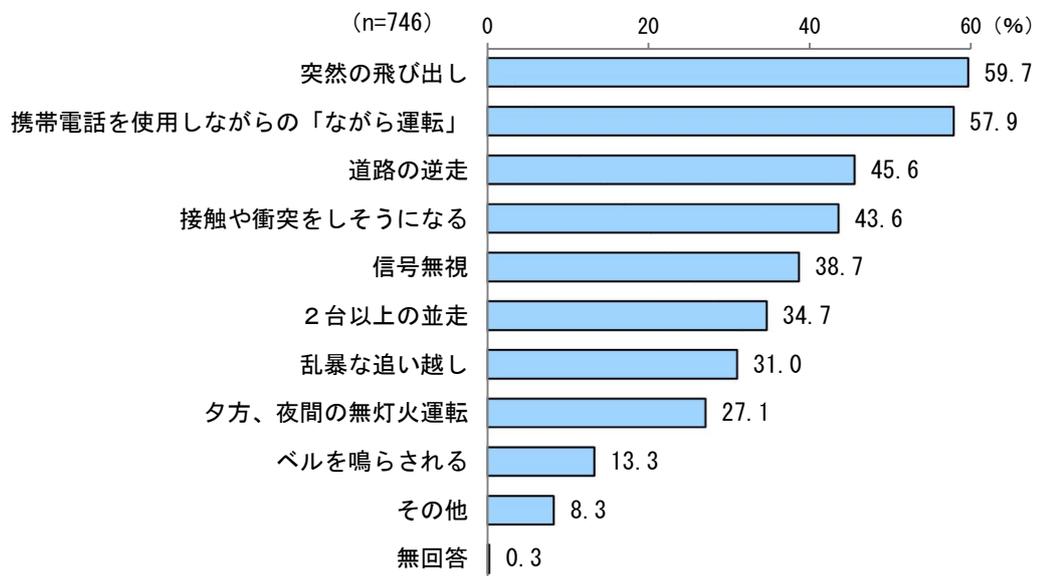
(1) 自転車に危険を感じたことがあるか

「ある」が86.1%、「ない」は12.5%となっている。



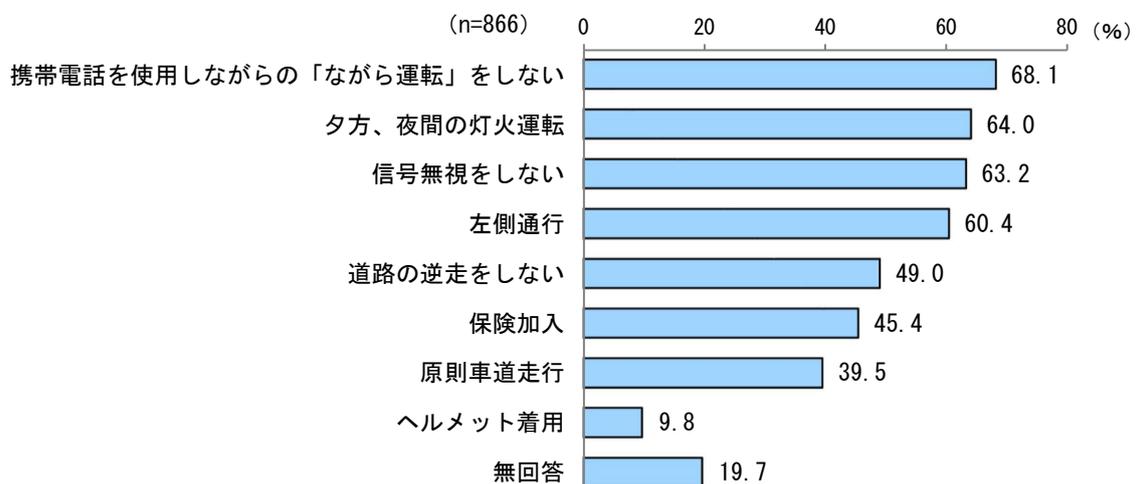
(2) 自転車に危険を感じた状況（複数回答）

「突然の飛び出し」が59.7%と最も高く、次いで、「携帯電話を使用しながらの『ながら運転』」が57.9%、「道路の逆走」が45.6%となっている。



(3) 自転車ルールを守っているか（複数回答）

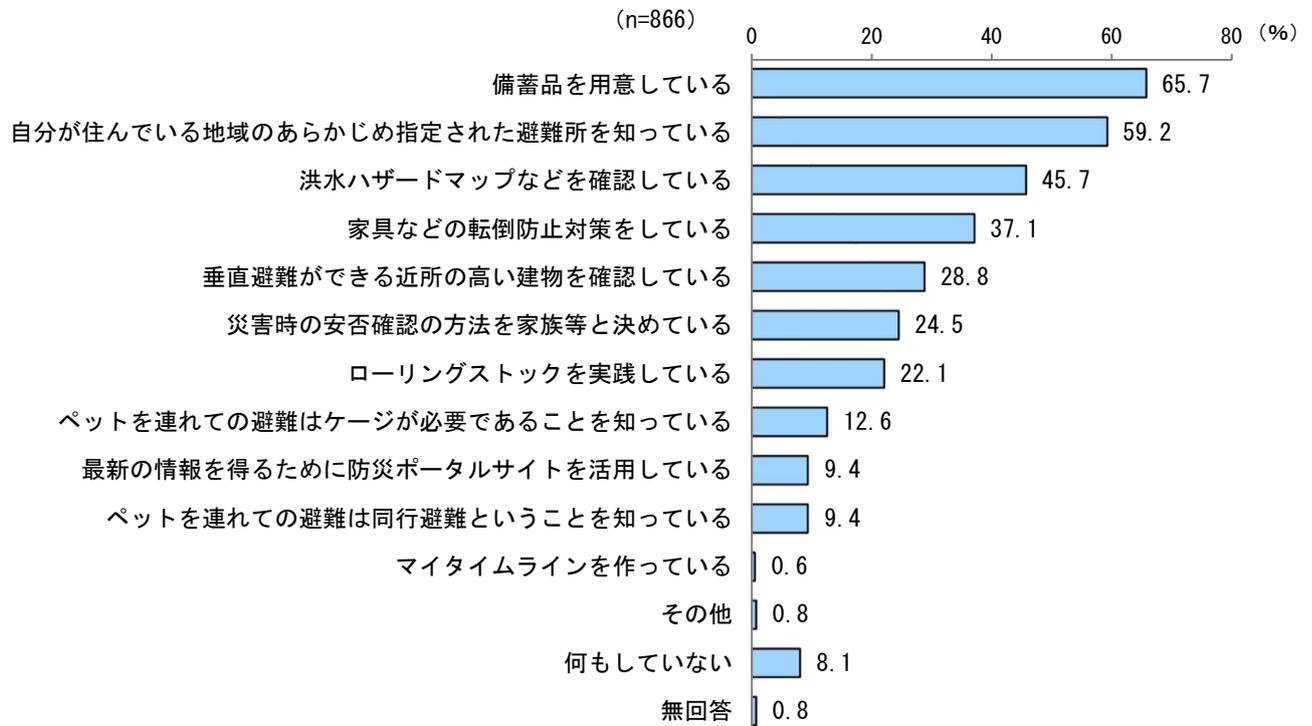
「携帯電話を使用しながらの『ながら運転』をしない」が68.1%と最も高く、次いで、「夕方、夜間の灯火運転」が64.0%、「信号無視をしない」が63.2%となっている。



4. 防災について

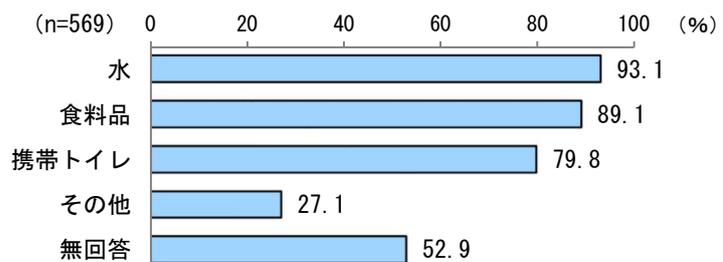
(1) 災害に備えていること（複数回答）

「備蓄品を用意している」が65.7%と最も高く、次いで、「自分が住んでいる地域のあらかじめ指定された避難所を知っている」が59.2%、「洪水ハザードマップなどを確認している」が45.7%となっている。



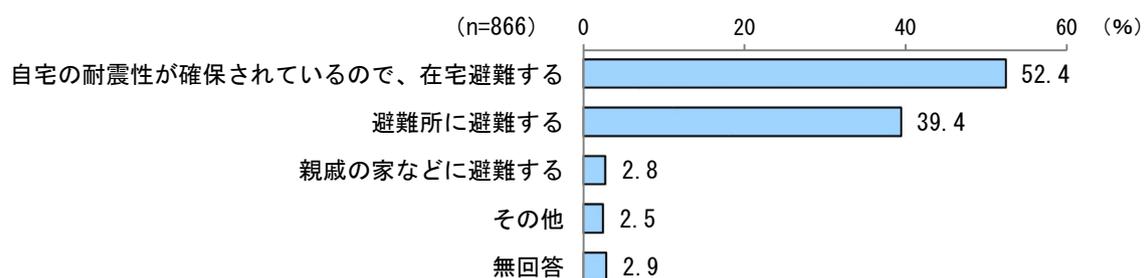
(2) 備蓄しているもの（複数回答）

「水」が93.1%と最も高く、次いで、「食料品」が89.1%、「簡易トイレ」が79.8%となっている。



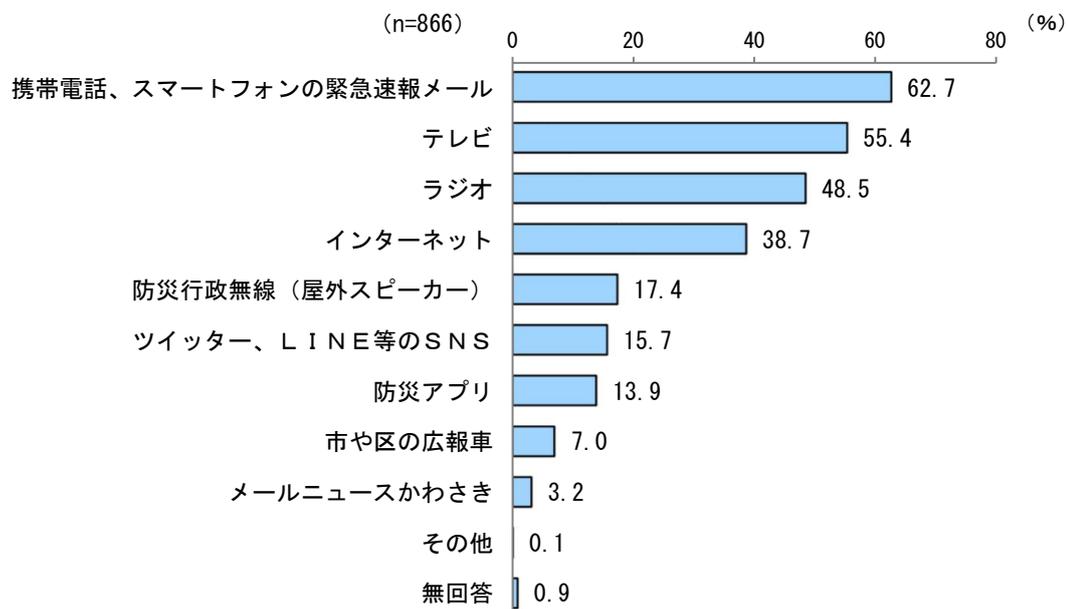
(3) どこに避難するか（複数回答）

「自宅の耐震性が確保されているので、在宅避難する」が52.4%と最も高く、次いで、「避難所に避難する」が39.4%、「親戚の家などに避難する」が2.8%となっている。



(4) 災害時に情報を得るための手段として有効なもの（複数回答）

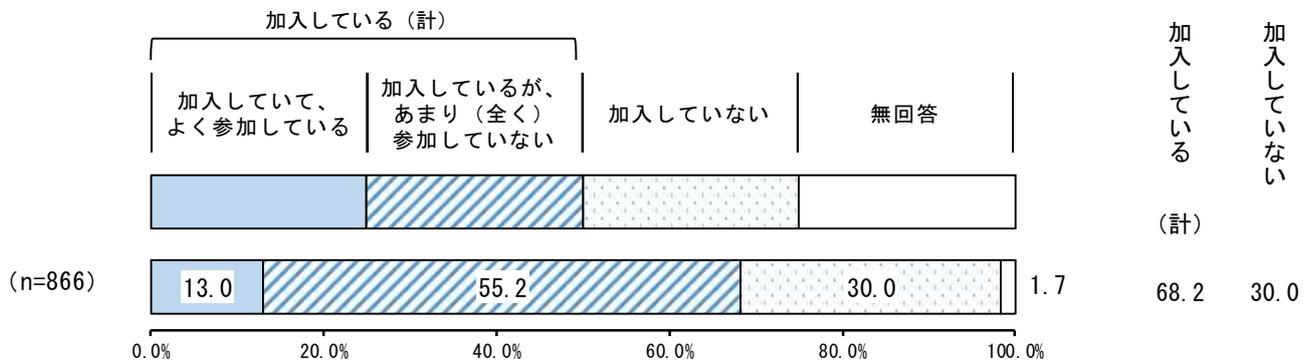
「携帯電話、スマートフォンの緊急速報メール」が 62.7%と最も高く、次いで、「テレビ」が 55.4%、「ラジオ」が 48.5%となっている。



5. 地域コミュニティについて

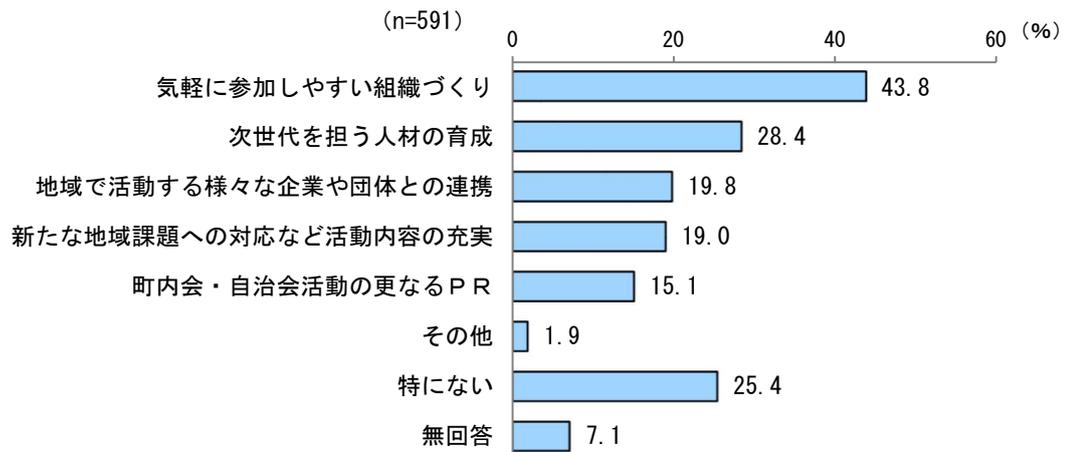
(1) 町内会・自治会の加入状況

「加入していて、よく参加している」(13.0%)と「加入しているが、あまり(全く)参加していない」(55.2%)を合わせた『加入している(計)』は68.2%となっている。一方、「加入していない」は30.0%となっている。



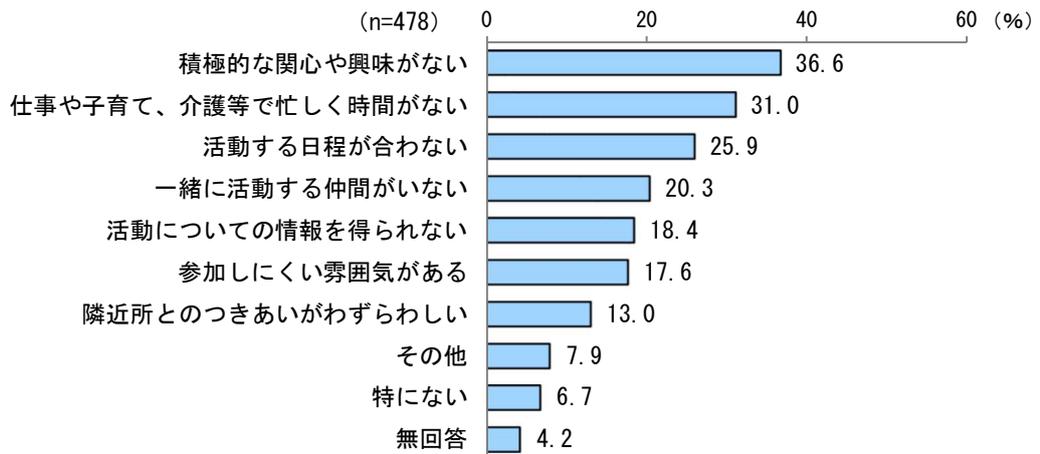
(2) 町内会・自治会活動に期待すること(複数回答)

「気軽に参加しやすい組織づくり」が43.8%と最も高く、次いで、「次世代を担う人材の育成」が28.4%、「地域で活動する様々な企業や団体との連携」が19.8%となっている。



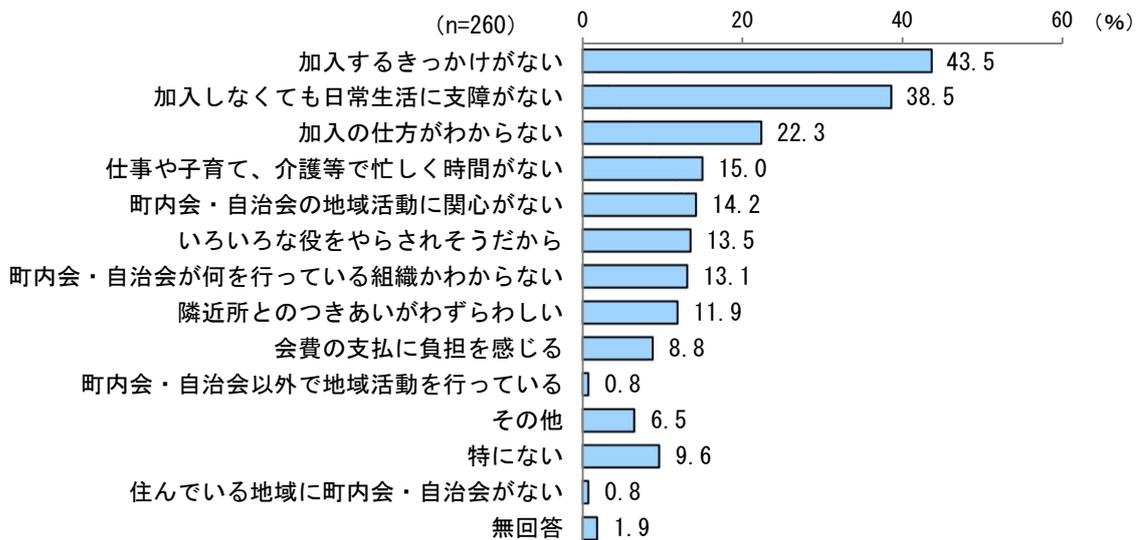
(3) 町内会・自治会活動に参加しない理由（複数回答）

「積極的な関心や興味がない」が36.6%と最も高く、次いで、「仕事や子育て、介護等で忙しく時間がない」が31.0%、「活動する日程が合わない」が25.9%となっている。



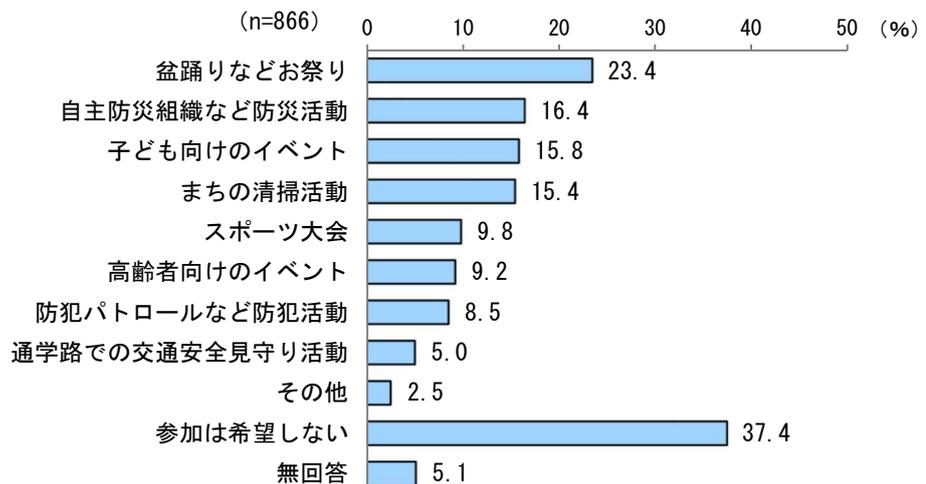
(4) 町内会・自治会に加入していない理由（複数回答）

「加入するきっかけがない」が43.5%と最も高く、次いで、「加入しなくても日常生活に支障がない」が38.5%、「加入の仕方がわからない」が22.3%となっている。



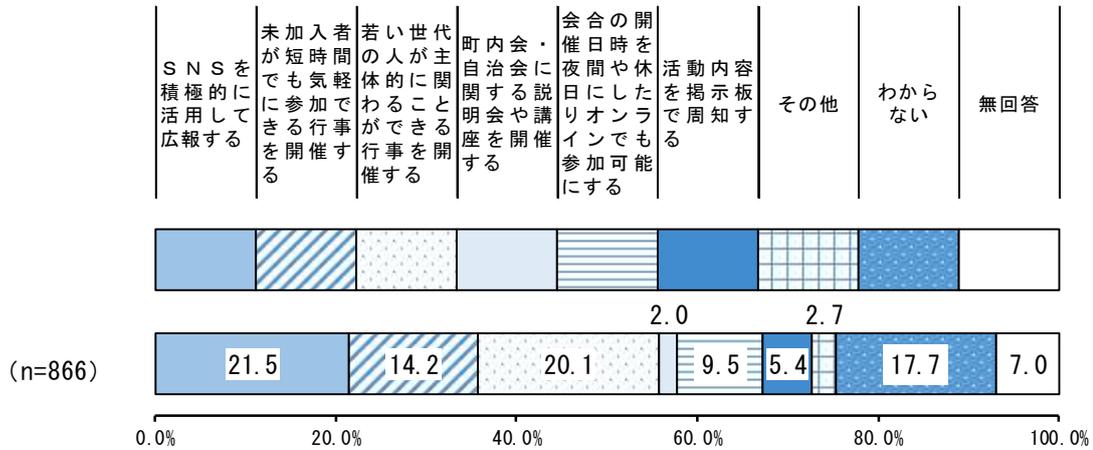
(5) 町内会・自治会の活動で参加してみたいこと（複数回答）

「盆踊りなどお祭り」が23.4%と最も高く、次いで、「自主防災組織など防災活動」が16.4%、「子ども向けのイベント」が15.8%となっている。



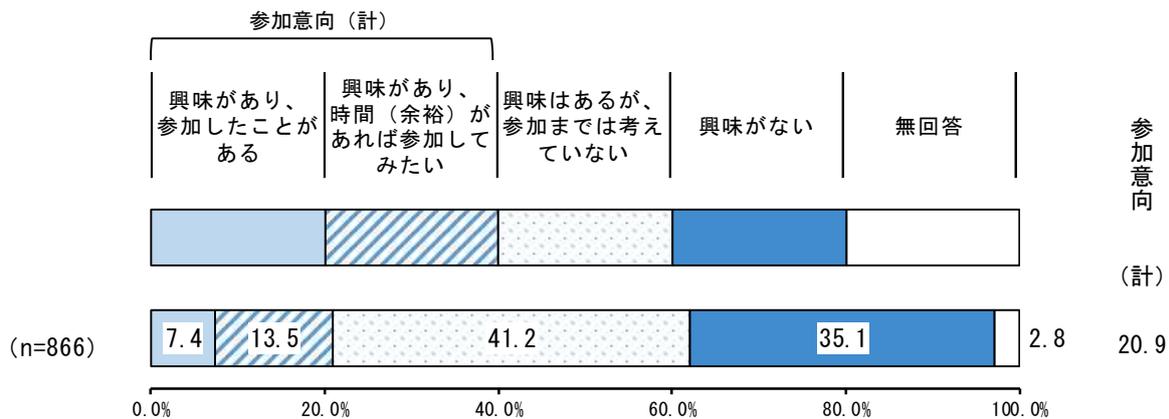
(6) 学生や現役世代に町内会・自治会の活動に関心を持ってもらうために有効な方法

「SNS を積極的に活用して広報する」が 21.5%と最も高く、次いで、「若い世代の人が主体的に関わることができる行事を開催する」が 20.1%、「未加入者が短時間でも気軽に参加できる行事を開催する」が 14.2%となっている。



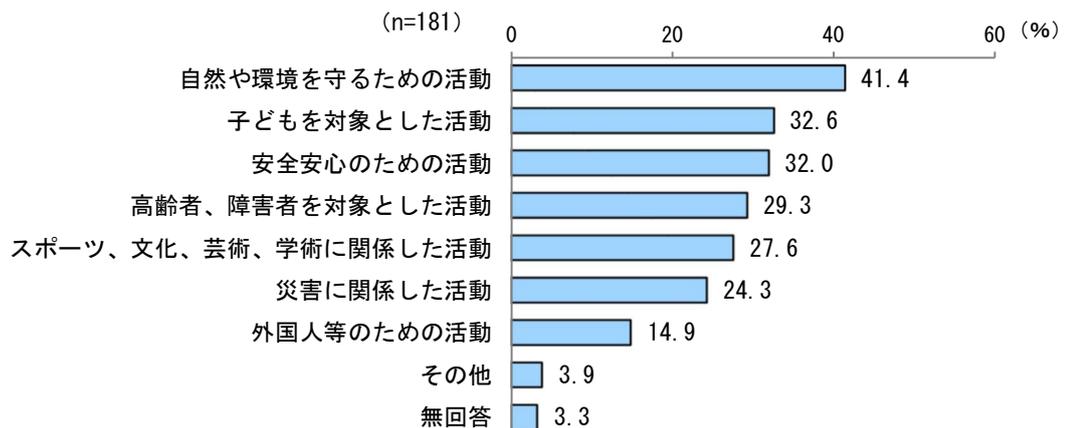
(7) ボランティア等の市民活動への興味

「興味があり、参加したことがある」(7.4%)と「興味があり、時間(余裕)があれば参加してみたい」(13.5%)を合わせた『参加意向(計)』は 20.9%となっている。一方、「興味はあるが、参加までは考えていない」が 41.2%、「興味がない」が 35.1%となっている。



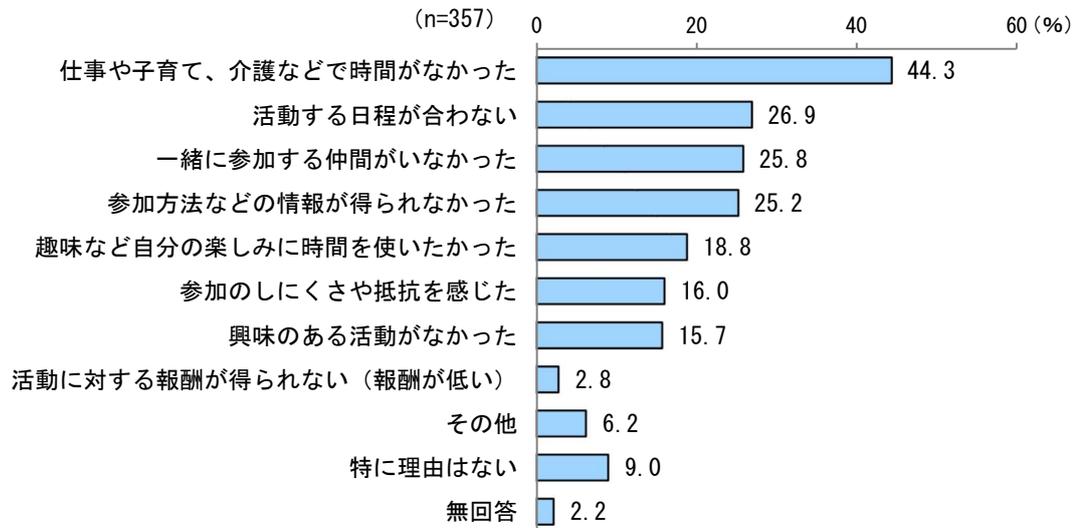
(8) 「参加したことがある」もしくは「参加してみたい」市民活動の分野(複数回答)

「自然や環境を守るための活動」が 41.4%と最も高く、次いで、「子どもを対象とした活動」が 32.6%、「安全安心のための活動」が 32.0%となっている。



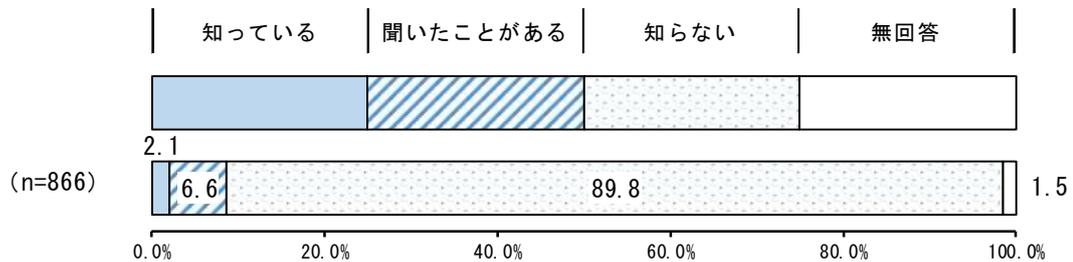
(9) 市民活動への参加にいたらなかった理由（複数回答）

「仕事や子育て、介護などで時間がなかった」が44.3%と最も高く、次いで、「活動する日程が合わない」が26.9%、「一緒に参加する仲間がいなかった」が25.8%となっている。



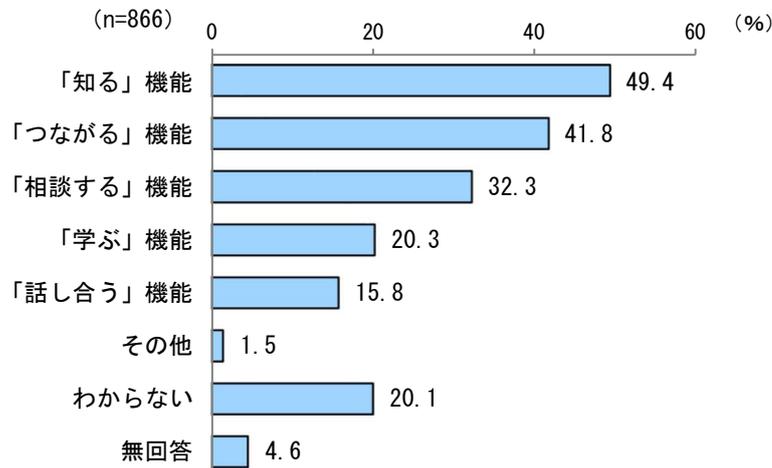
(10) さいわいソーシャルデザインセンター「まちのおと」の認知度

「知っている」が2.1%、「聞いたことがある」が6.6%となっている。一方、「知らない」は89.8%となっている。



(11) 市民活動やコミュニティ活動を行っていくために必要な機能（複数回答）

『知る』機能（地域の活動情報を伝える機能）が49.4%と最も高く、次いで、『つながる』機能（地域の方々が交流し、つながりを持つ機会をつくる機能）が41.8%、『相談する』機能（地域活動を始めたい方などに、必要なノウハウを提供し、サポートする機能）が32.3%となっている。

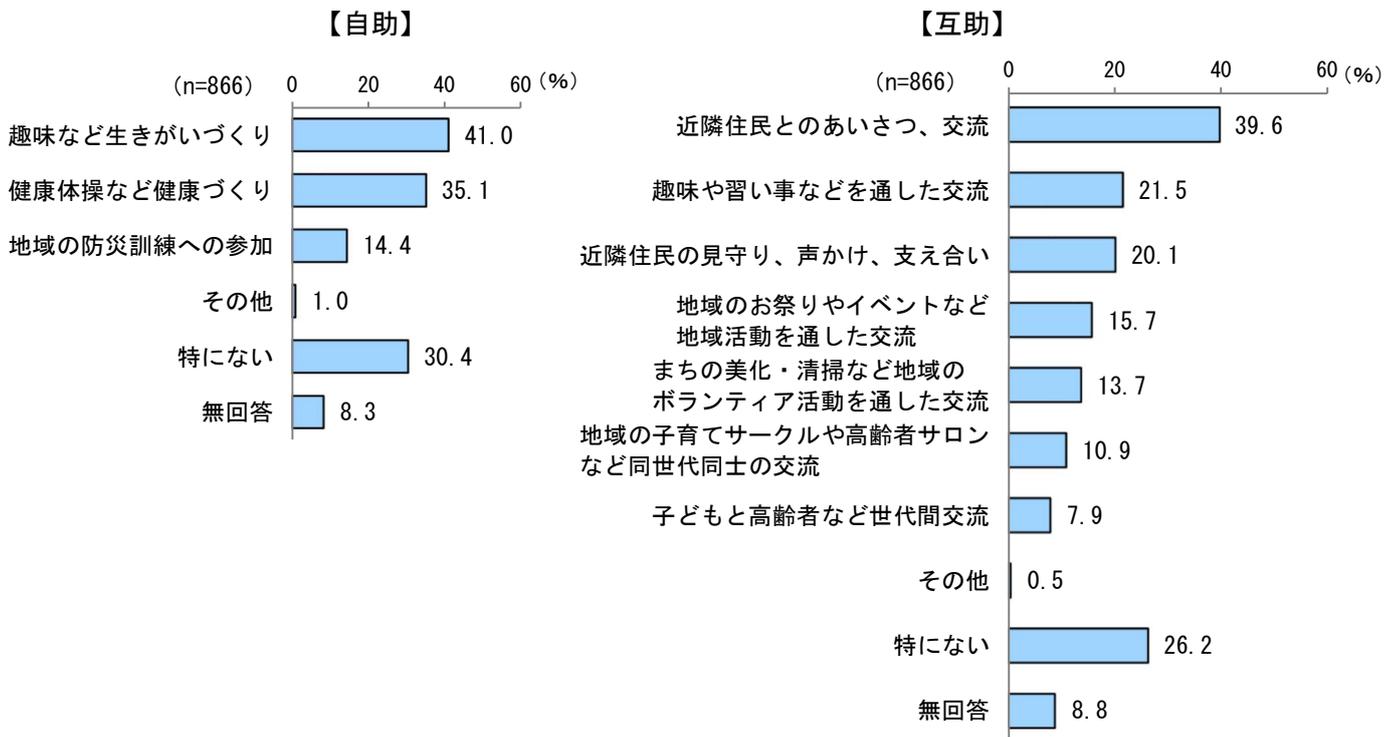


6. 地域包括ケアシステムについて

(1) 自助、互助について行っていること、行ってみたいこと（複数回答）

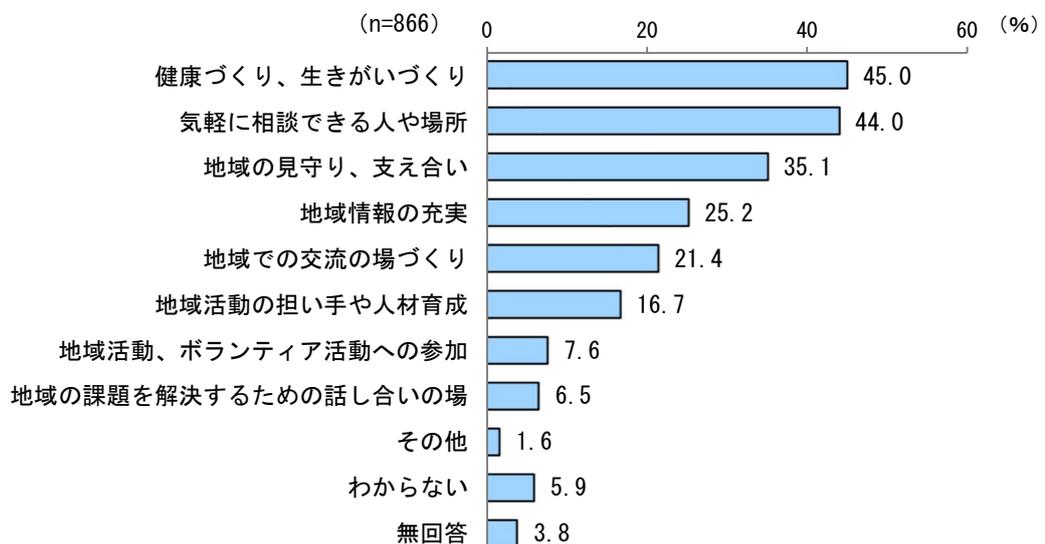
【自助】について行っていること（行ってみたいこと）を聞いたところ、「趣味など生きがいづくり」が41.0%と最も高く、次いで、「健康体操など健康づくり」が35.1%、「地域の防災訓練への参加」が14.4%となっている。

また、【互助】について行っていること（行ってみたいこと）を聞いたところ、「近隣住民とのあいさつ、交流」が39.6%と最も高く、次いで、「趣味や習い事などを通じた交流」が21.5%、「近隣住民の見守り、声かけ、支え合い」が20.1%となっている。



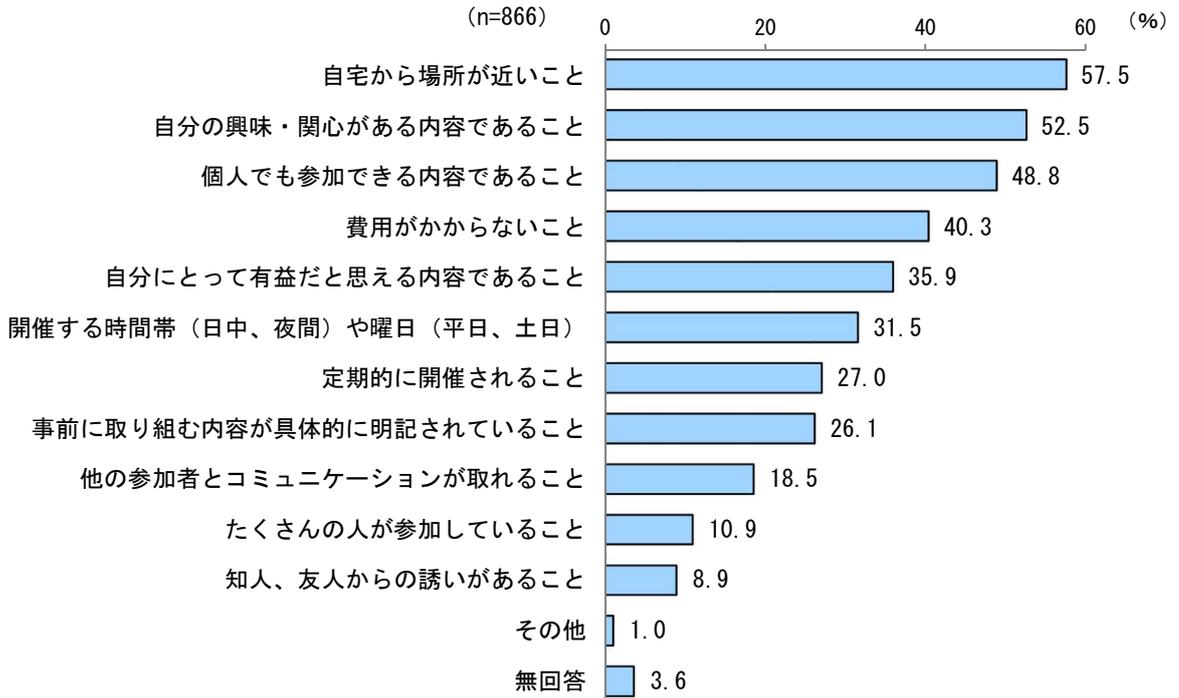
(2) 誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために必要なこと（複数回答）

「健康づくり、生きがいづくり」が45.0%と最も高く、次いで、「気軽に相談できる人や場所」が44.0%、「地域の見守り、支え合い」が35.1%となっている。



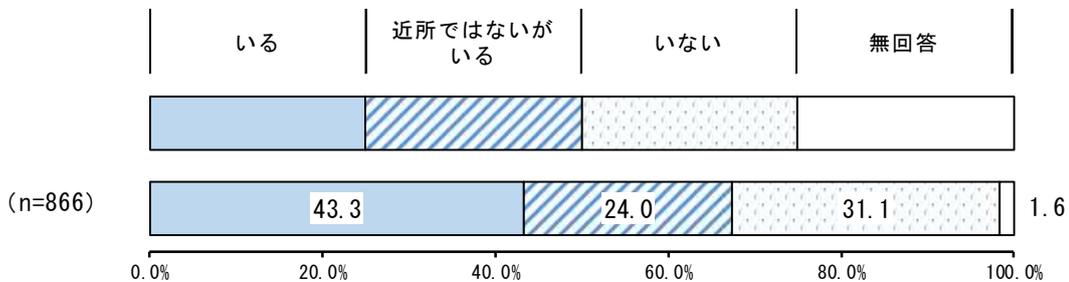
(3) 健康づくりや生きがいづくりに重要だと思うこと（複数回答）

「自宅から場所が近いこと」が 57.5%と最も高く、次いで、「自分の興味・関心がある内容であること」が 52.5%、「個人でも参加できる内容であること」が 48.8%となっている。



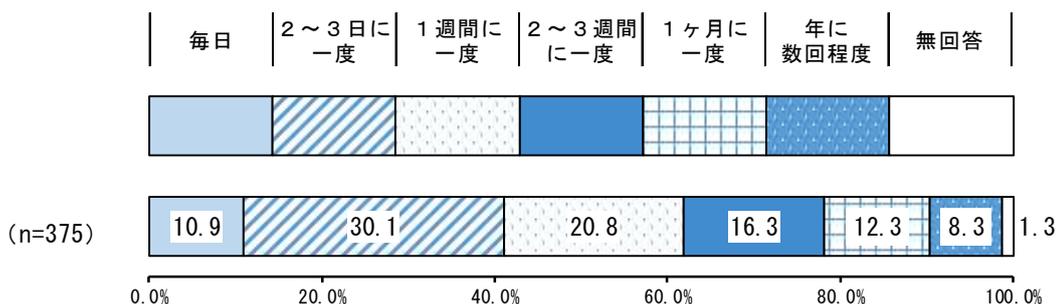
(4) 近所の話し相手の有無

「いる」が 43.3%と最も高く、次いで、「いない」が 31.1%、「近所ではないがいる」が 24.0%となっている。



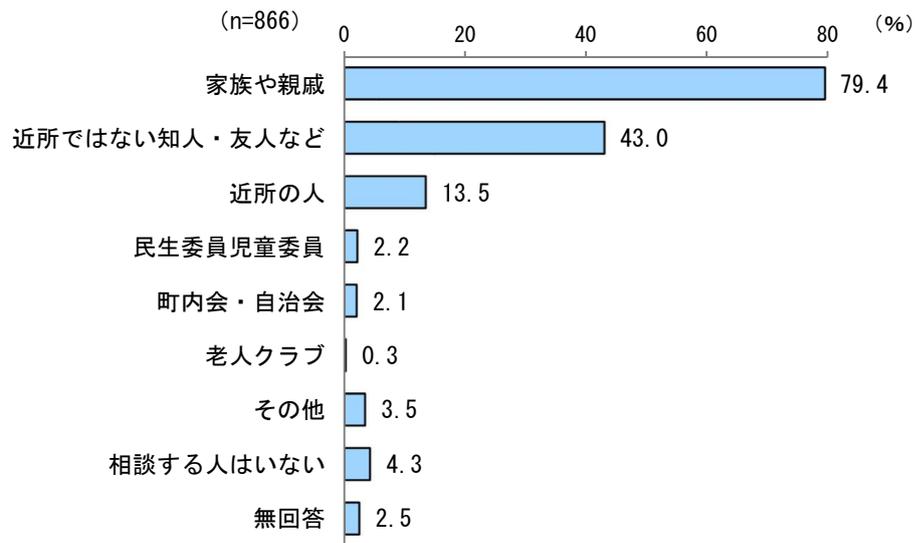
(5) 近所の話し相手との会話の頻度

「2～3日に一度」が 30.1%と最も高く、次いで、「1週間に一度」が 20.8%、「2～3週間に一度」が 16.3%となっている。



(6) 何かあったときの相談相手（複数回答）

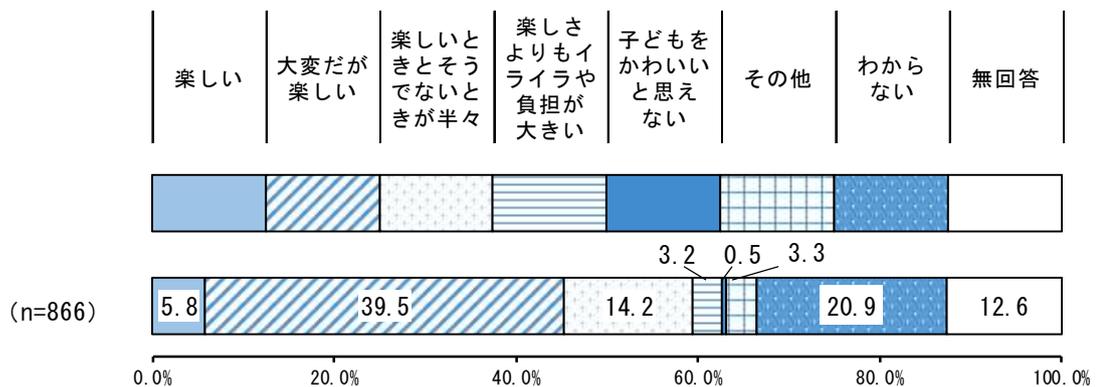
「家族や親戚」が 79.4%と最も高く、次いで、「近所ではない知人・友人など」が 43.0%、「近所の人」が 13.5%となっている。



7. 子育て支援について

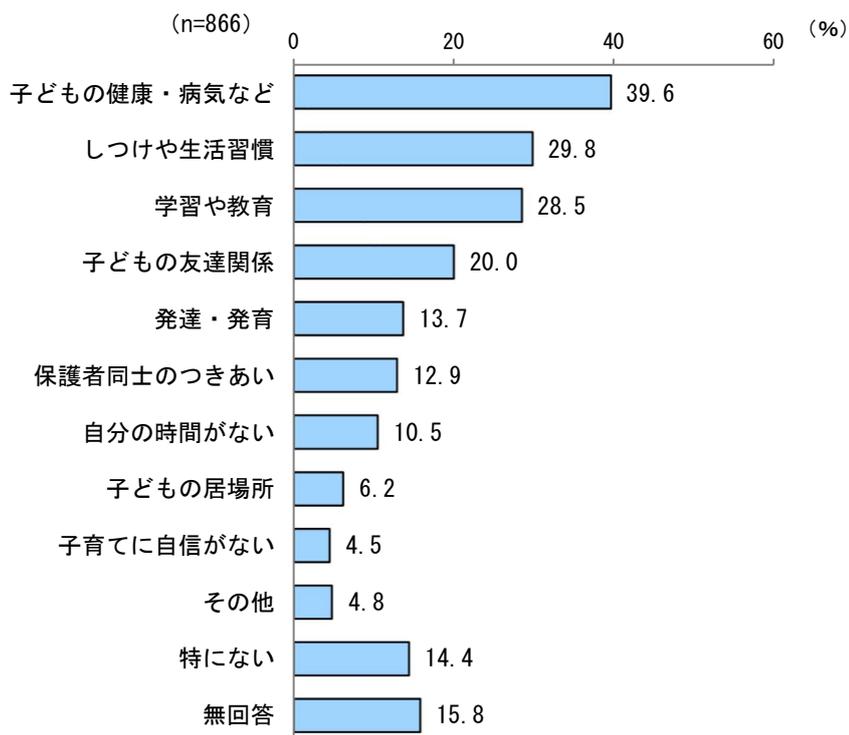
(1) 子育てについて感じること

「大変だが楽しい」が 39.5%と最も高く、次いで、「楽しいときとそうでないときが半々」が 14.2%、「楽しい」が 5.8%となっている。



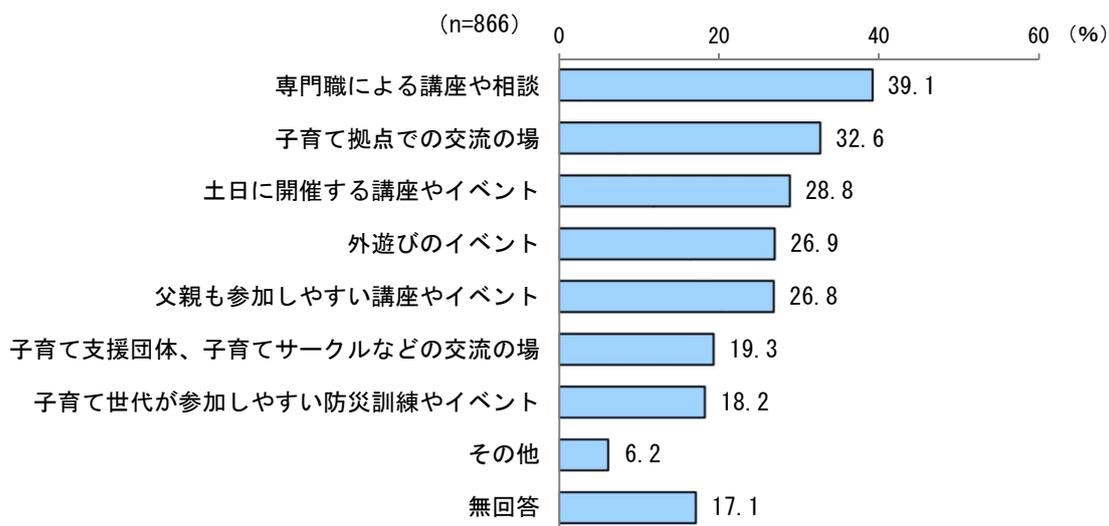
(2) 子育てをしているときに感じる不安や悩み（複数回答）

「子どもの健康・病気など」が39.6%と最も高く、次いで、「しつけや生活習慣」が29.8%、「学習や教育」が28.5%となっている。



(3) 子育て支援の取り組みについて効果的だと思うもの（複数回答）

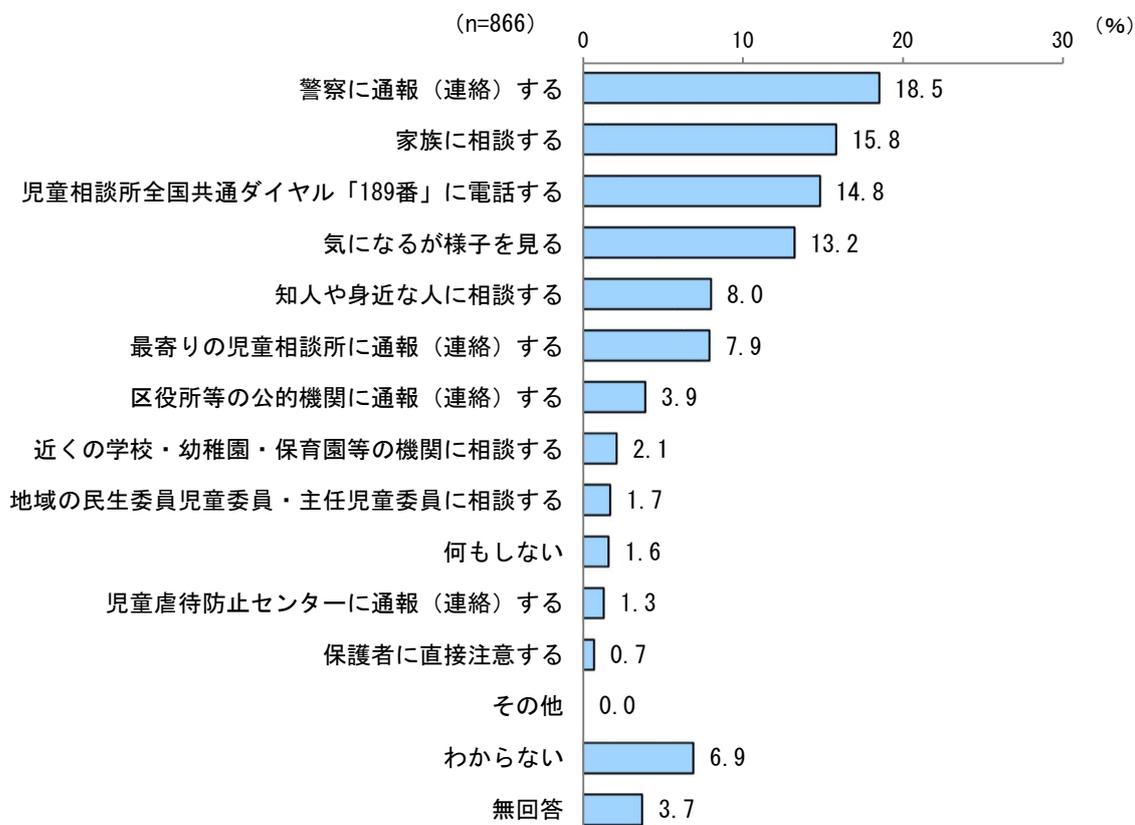
「専門職による講座や相談」が39.1%と最も高く、次いで、「子育て拠点での交流の場」が32.6%、「土日開催する講座やイベント」が28.8%となっている。



8. 児童虐待について

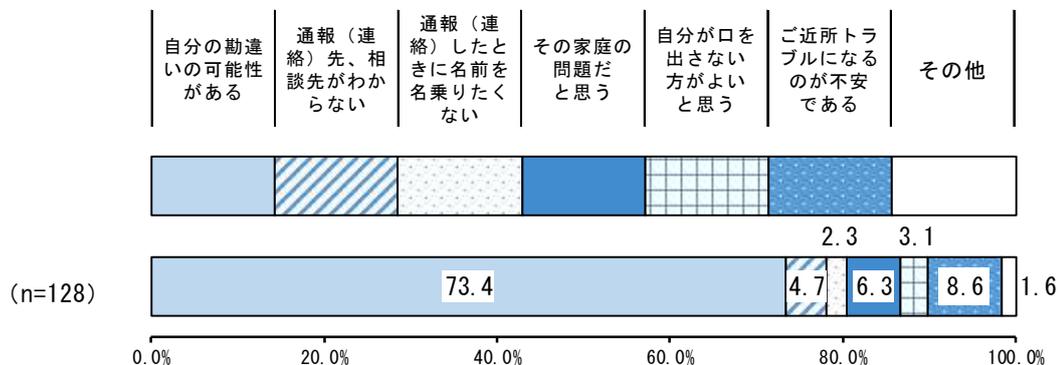
(1) 児童虐待と思われる家庭を知ったときの対応（複数回答）

「警察に通報（連絡）する」が 18.5%と最も高く、次いで、「家族に相談する」が 15.8%、「児童相談所全国共通ダイヤル『189番（いちはやく）』に電話する」が 14.8%となっている。



(2) 児童虐待への対応が消極的な理由（「気になる様子を見る」「何もしない」理由）

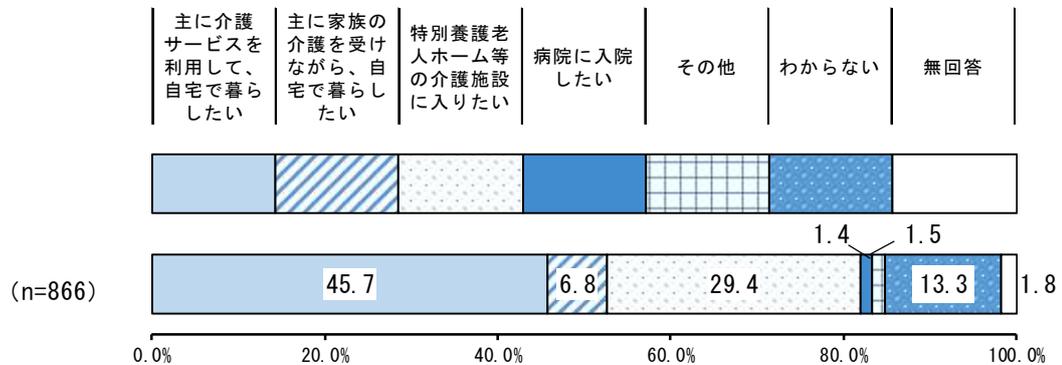
「自分の勘違いの可能性はある」が 73.4%と最も高く、次いで、「ご近所トラブルになるのが不安である」が 8.6%、「その家庭の問題だと思ふ」が 6.3%となっている。



9. 高齢者支援について

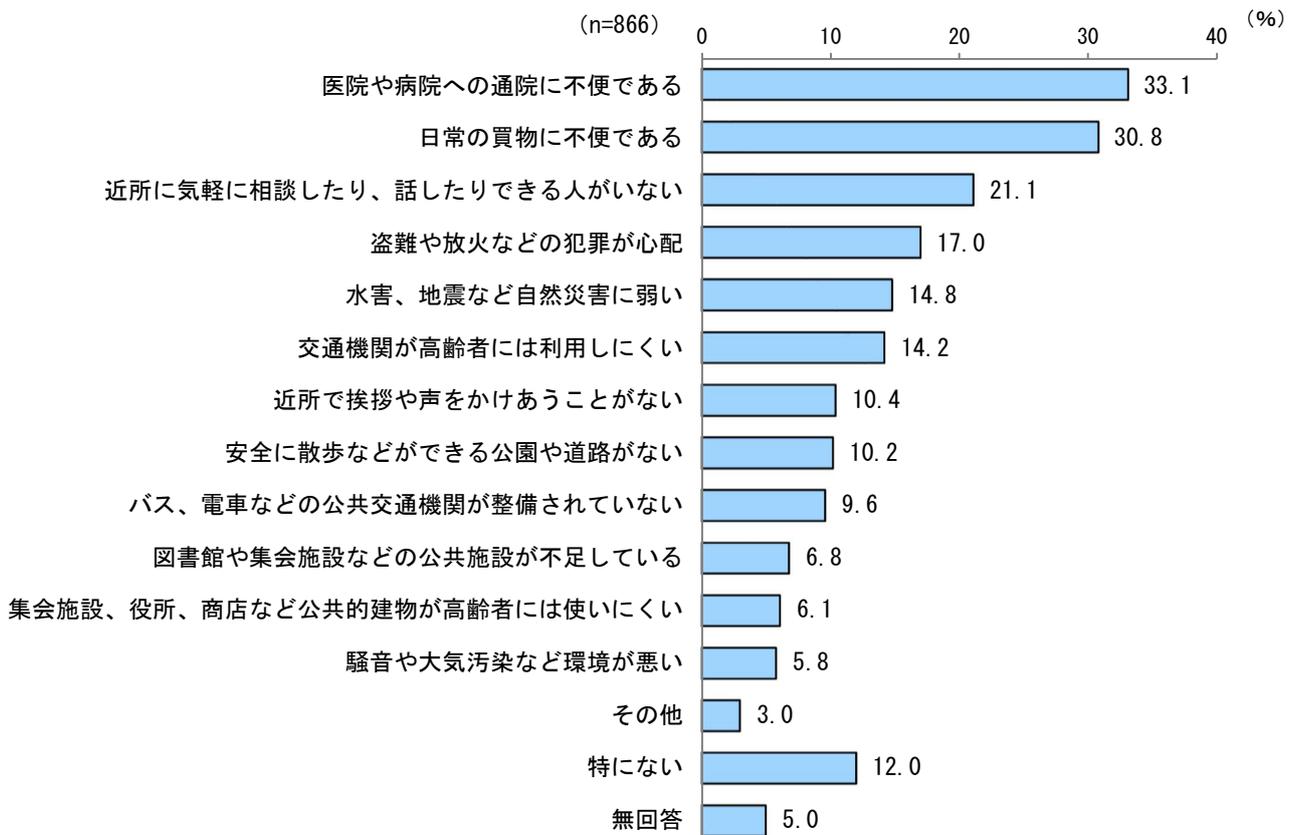
(1) 介護が必要になった場合の希望する生活

「主に介護サービスを利用して、自宅で暮らしたい」が45.7%と最も高く、次いで、「特別養護老人ホーム等の介護施設に入りたい」が29.4%、「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」が6.8%となっている。



(2) 高齢者が感じる地域の問題点（複数回答）

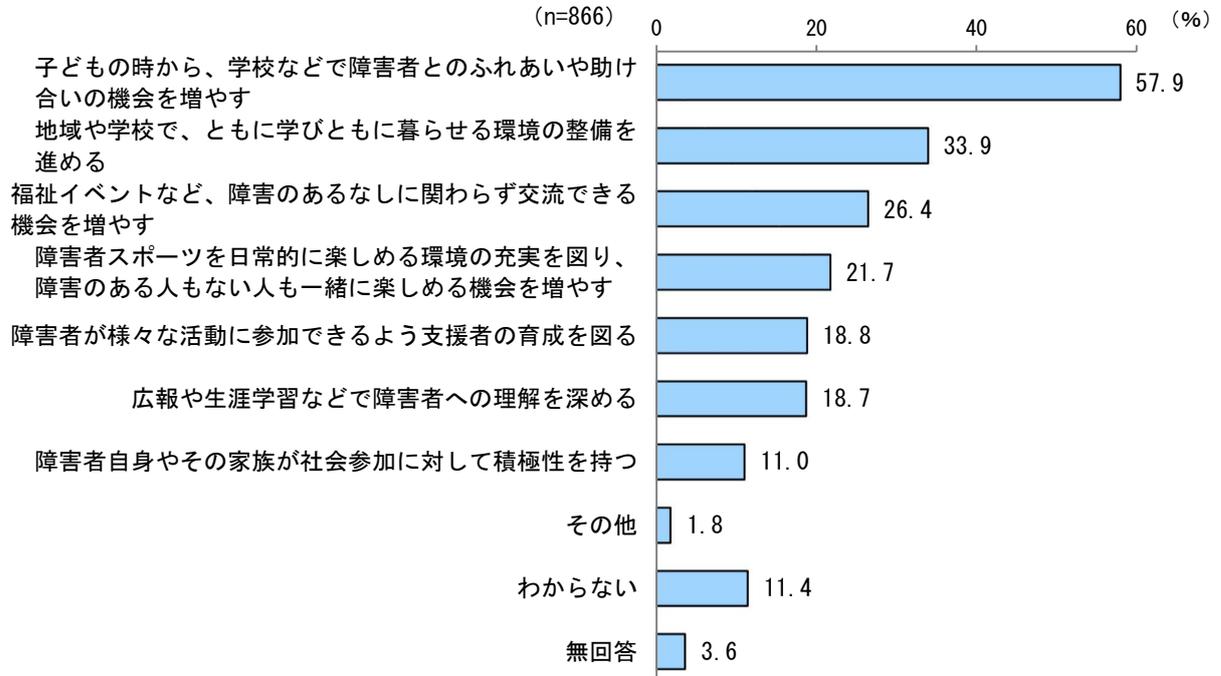
「医院や病院への通院に不便である」が33.1%と最も高く、次いで、「日常の買物に不便である」が30.8%、「近所に気軽に相談したり、話したりできる人がいない」が21.1%となっている。



10. 障害者支援について

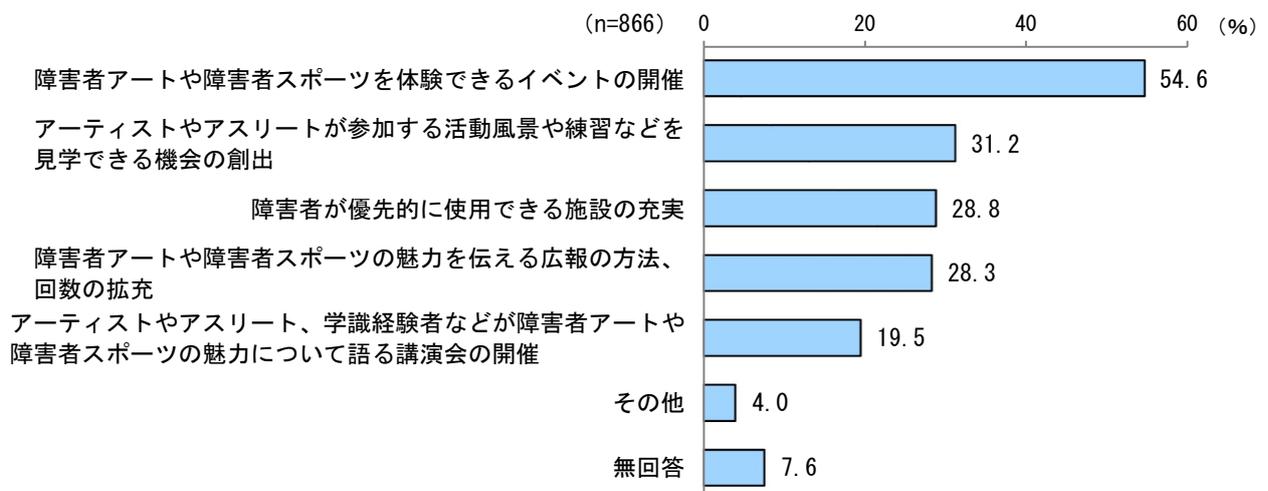
(1) 心のバリアフリーを進めていくために大切だと思うこと（複数回答）

「子どもの時から、学校などで障害者とのふれあいや助け合いの機会を増やす」が 57.9%と最も高く、次いで、「地域や学校で、ともに学びともに暮らせる環境の整備を進める」が 33.9%、「福祉イベントなど、障害のあるなしに関わらず交流できる機会を増やす」が 26.4%となっている。



(2) 障害者アートや障害者スポーツを普及するために必要な取り組み（複数回答）

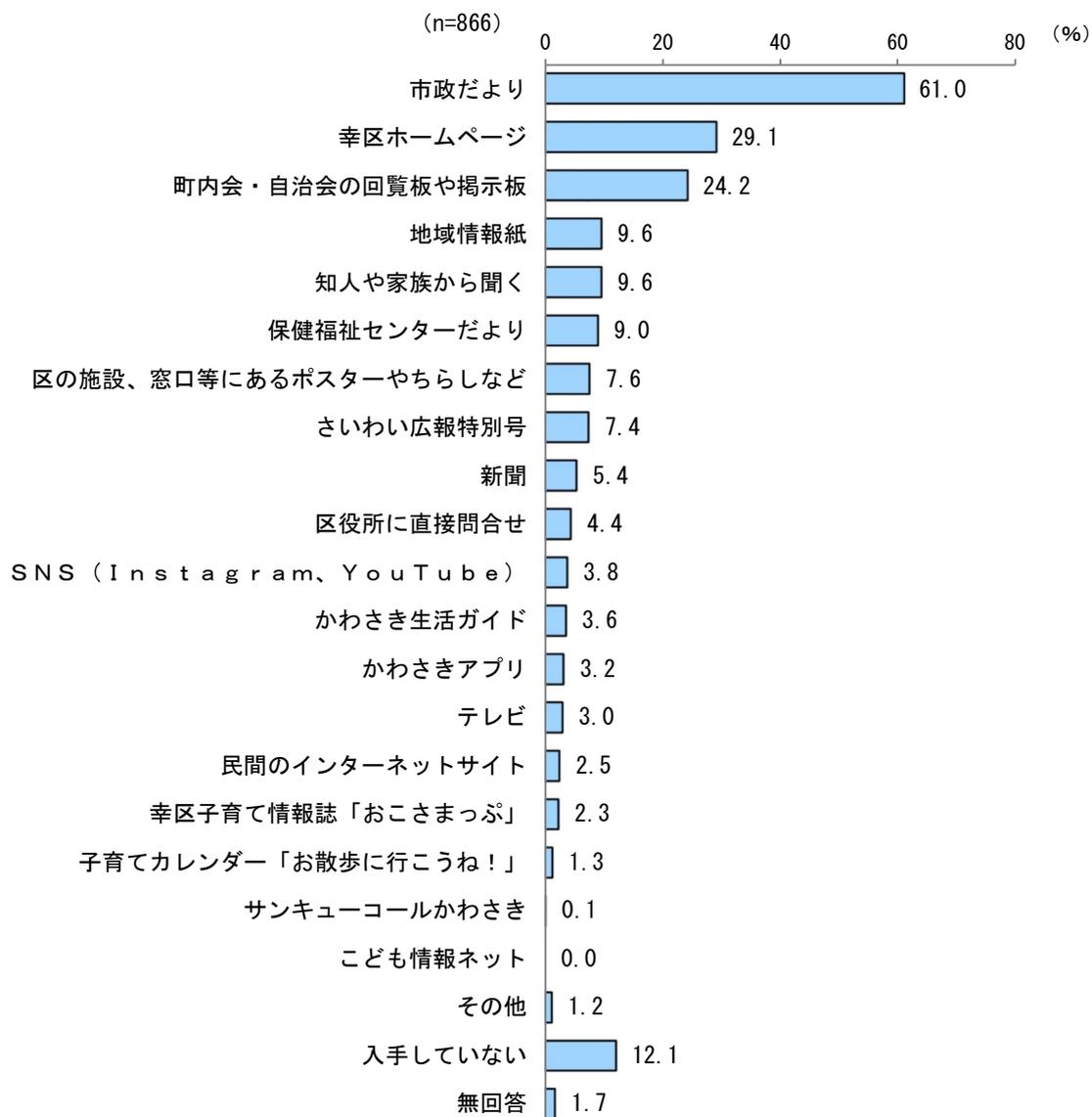
「障害者アートや障害者スポーツを体験できるイベントの開催」が 54.6%と最も高く、次いで、「アーティストやアスリートが参加する活動風景や練習などを見学できる機会の創出」が 31.2%、「障害者が優先的に使用できる施設の充実」が 28.8%となっている。



11. 行政の情報について

(1) 行政情報の入手方法（複数回答）

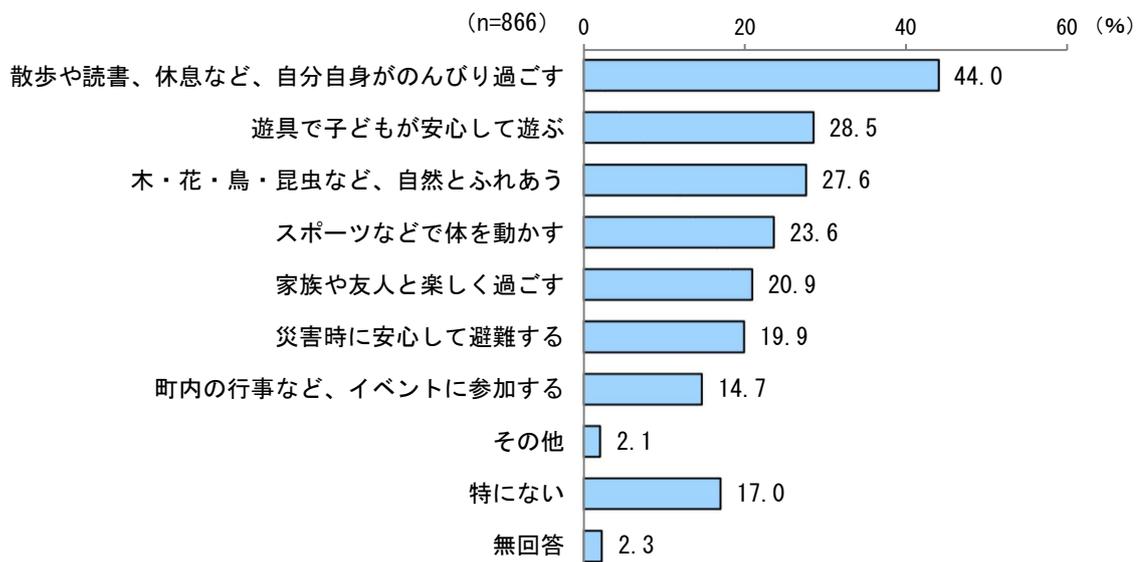
「市政だより」が61.0%と最も高く、次いで、「幸区ホームページ」が29.1%、「町内会・自治会の回覧板や掲示板」が24.2%となっている。



12. 公園の利用について

(1) 公園の利用方法（複数回答）

「散歩や読書、休息など、自分自身がのんびり過ごす」が44.0%と最も高く、次いで、「遊具で子どもが安心して遊ぶ」が28.5%、「木・花・鳥・昆虫など、自然とふれあう」が27.6%となっている。



13. 自由意見

「区役所、行政全般について」(34件)が最も多く、次いで、「区役所の窓口対応について」(19件)、「バス・鉄道などの公共交通機関について」(18件)、「道路整備について」(18件)となっている。

順位	項目	件数
第1位	区役所、行政全般について	34
第2位	区役所の窓口対応について	19
第3位	バス・鉄道などの公共交通機関について	18
〃	道路整備について	18
第5位	公園・緑地河川の整備について	12

(主な意見)

第1位「区役所、行政全般について」

- ・区役所の立地が不便。
- ・コンビニやオンライン等で手続きを完結させたい。
- ・開庁日を増やしたり、開庁時間を延ばしてほしい。

第2位「区役所の窓口対応について」

- ・丁寧に対応してほしい。混雑もひどい。
- ・親身になって対応してもらい、よかった。

第3位「バス・鉄道などの公共交通機関について」

- ・バスルートの整備や増便をしてほしい。
- ・踏切の高架化を早急に進めてほしい。

第3位「道路整備について」

- ・狭い道の整備をしてほしい。
- ・雑草等をきれいにしてほしい。
- ・車、自転車マナーの取り締まりを強化してほしい。



令和6年度 幸区区民アンケート調査 <概要版>

令和7年2月

発行 幸区役所 まちづくり推進部企画課

〒212-8570 川崎市幸区戸手本町 1-11-1

TEL 044-556-6612 (直通)

FAX 044-555-3130

メールアドレス 63kikaku@city.kawasaki.jp